

謹賀新年



地域経済と市民生活の
元気を取り戻し、未来に希望の
持てる共生社会を目指して

五所川原市長 佐々木 孝昌

コロナ禍を乗り越える
希望の1年に

五所川原市議会議員 磯邊 勇司



明 けましておめでとうございます。
市民の皆様には、健やかに新春をお迎えのこと
とお慶び申し上げます。

さて、昨年は、本県においても複数のクラスターが
発生するなど、新型コロナウイルス感染症の脅威がより
深刻化した年でした。そうした中でも、当市では感染を最
小限に抑えることができ、皆様の感染防止対策へのご協
力に、心より感謝申し上げます。

本年は、引き続き感染防止対策に努めながら、地域
経済と市民生活の元気を取り戻すとともに、人と人とのつ
ながりの大切さを共有し、子どもから高齢者まで誰もが
地域で安全で安心な生活が送れるよう「地域共生社会」
実現のために、市民の皆様と一緒に取り組んでまいりた
いと思っております。

○コロナ収束後を見据えた社会経済活動の再生に向けて

現在、全国的な感染状況の落ち着きに伴い、市民生活
と社会経済活動は少しずつもとの姿を取り戻しつつあり
ます。昨年10月、大型立佷武多「暫（しばらく）」のお
披露目となった「五所川原立佷武多 秋の陣」は、関係
各位のご尽力とご観覧の皆様の節度ある行動により成功
を収めることができ、大変心強く感じました。

一方、近年にない大幅な米価下落により、稲作農家
にとっては大変厳しい年となりました。市では、次期作に
向けて稲作経営の維持に取り組んでいただけたよう支援
を行ったほか、基幹産業である農業の振興を図るため、
スマート農業の推進、高収益作物への転換や新規就農者
支援など、農業経営の効率化・安定化に取り組んでまい
ります。

また、金木観光物産館「産直メロス」については、本
年4月のオープンに向けて準備を進めているところ
です。斜陽館周辺を含めた地区一帯を新たな金木地域の顔と
して、生きがいや生業づくりの場として整備し、地域の活
性化につなげていきたいと考えています。

「第6波」の懸念がぬぐえませんが、ウィズコロナ、
そしてアフターコロナを見据えながら「守り」から「前
進」に方針転換し、地域社会経済の再生に向けて各種施
策を積極的に展開してまいります。

○市民の健康と安全・安心を守り抜く

当市では、昨年末で9割近い方が2回目のワクチン接
種を終え、非常に高い接種率となりました。市民の皆
様の感染防止に対する意識の高さの表れであり、改めて感
謝申し上げます。

引き続き感染防止対策に取り組みながら、2月からの
3回目の接種開始に向けて、関係機関と連携し万全の体
制を整えてまいります。

また、市域全体にしっかりと目を配り、生活インフラ
の修繕やきめ細かな除排雪、さらには高齢者をはじめ、
移動手段や買物などにご不便を抱えている方への支援、
地域公共交通の充実など、市民の福祉向上に最大限努め
てまいります。

市浦地域では、運動施設と入浴施設を兼ね備えた健康
増進施設を整備し、各種健康教育や保健指導の取組み
と連動し、ハード・ソフトの両面から健康づくり事業の
拡充を進めます。

○結びに

新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中、既成の
概念や手法にこだわらず、既存の枠を超えた思い切った
発想の転換や現状を打破する取り組みが必要とされてい
ます。

市民の皆様の声に真摯（しんし）に耳を傾け、常に柔
軟な発想と市民目線をもって、将来に希望を持てるよう
な市政運営に全力で取り組んでまいりますので、本年も
ご支援とご協力を賜りますとともに、本年が皆様にとっ
て素晴らしい年となりますことを心よりご祈念申し上げ
まして、年頭のごあいさつといたします。

明 けましておめでとうございます。
五所川原市議会を代表し、謹んで新年のごあい
さつを申し上げます。

昨年を振り返りますと、1年遅れで開催された「東
京2020オリンピック・パラリンピック」でのアスリー
トの活躍など明るい話題もあったものの、青森県でも
新型コロナウイルスの感染者が急増し、9月の1カ月
間を緊急対策パッケージとして、行事やイベントの見
直し、公共施設等の利用中止要請など、当市におい
ても人々の社会活動や、地域経済に大きな影響を与え
ました。

○地域経済の再生に向けて

新型コロナウイルスの影響が長期化する中、外食産
業の低迷により、令和3年産米の生産者概算金は過去
最大の下げ幅となったことは、米農家の生産継続を脅
かしかねず、農林水産業を基幹産業とする当市にとっ
ても大きな打撃となりました。

一方で、昨年9月末日をもって緊急事態措置および
まん延防止等重点措置が全国的に解除となったことか
ら、社会活動の再開、経済の再生に向けて動き出して
おります。

地域コミュニティの活動や経済をこれ以上衰退させ
ないためにも、市民の皆様には引き続き感染防止対策
に努めていただきながら、少しずつでも以前のような
活動を再開していただきたいと思っております。

○地域コミュニティによる災害への備えを

昨年8月には、台風9号から変わった低気圧により、
むつ市、風間浦村、七戸町が豪雨に見舞われ、河川の
はんらんや土砂災害が発生し、甚大な被害となりまし
た。

当市には幸い大きな被害がなかったものの、大規模
な災害が発生した時は、行政や消防などの公的機関に
よる迅速な支援が困難になると思われることから、自
分の身は自分で守る「自助」と共に、地域の方々と助
け合う「ご近助」の「共助」が不可欠であります。

しかし、当市の自主防災組織の組織率は低く、昨年
の住民懇談会では、このような仕組みをご存じないと
いった声も多く聞かれました。

地域のコミュニティは生活の基礎となっていくもの
でありますから、日頃から地域での交流と防災活動の
ため、話し合う機会を持っていただき、自主防災組織
を結成するなど、いつ起きるかわからない災害へ備え
ることが望まれます。

○結びに

本年の干支である「壬寅（みずのえとら）」には、
春の草木が生ずるという意味があり、厳しい冬を越え
て芽吹き始め、成長の礎となる年とされております。

市議会といたしましても、市民の皆様の声を市政に
届けることができるようまい進してまいりますので、引
き続きのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上
げますとともに、本年がこの困難な状況を脱し、希望の
光が差し込む1年となることを祈念し、新年のごあいさ
つといたします。

